

2011年 F1 日本グランプリ 小林可夢偉選手の被災地招待について

F1 ドライバーの小林可夢偉選手は、10月9日に三重県・鈴鹿サーキットで開催される「F1 日本グランプリレース」に被災地の子供たちを招待する事を決定いたしました。

このたび小林選手が招待するのは、福島県南相馬市を中心に活躍する少女合唱団「MJC アンサンブル」のメンバーとその家族及び関係者の約60名です。

MJC アンサンブルのメンバーは、東日本大震災以降、各地から様々な支援を受けていることに対して、観光庁が後援するイベントなど様々な場所で感謝の気持ちをこめた出演をしてきました。

そして今回、彼女たちの“世界に向けてがんばっている姿を見せたい、感謝を表したい”という気持ちと、“被災地の子供たちにF1を見てもらいたい、世界に日本の元気を届けたい”とする日本国観光庁のスポーツマイスターとしての可夢偉選手の気持ちがつながり、この度の招待が実現しました。

メンバーは可夢偉応援席でF1観戦をすると共に、F1決勝前に行われるセレモニーで国歌を歌うこととなります。福島の元気な子供たちによる歌声は国際放送で約160カ国に放送され、世界への感謝と東北の元気が世界中に届けられるでしょう。

小林可夢偉選手

「このたび南相馬の子供たちにF1を見てもらうとともに、決勝前の国歌斉唱を彼女たちに歌ってもらうことにしました。当初は多くの被災者に来てもらおうと考えていましたが、F1興行の代表であるバーニー・エクレストンさんが3000人もの被災者を招待してくれるという素晴らしいプランを実現してくれたので、僕は日本人ドライバーとして、被災地の子供たちの歌を世界に届けることで、世界への感謝の気持ちと日本の元気と力を伝えたいと思います。」

主催：小林可夢偉

協力：観光庁、一般社団法人 RE-BORN47、株式会社モビリティランド